

## 大山～鐘ヶ岳

山行日：2016年10月30日（日） 参加者：4名

記：t h

コースタイム：秦野駅/7:36ーヤビツ峠/8:25ー大山山頂/9:35ー唐沢峠/11:00～11:20ー  
不動尻/12:00ー鐘ヶ岳/13:00ー鐘ヶ岳入口/14:00



この時期当然混雑すると予想していたが一番バスでも長蛇の列が、2台のバスでも乗り切れず。本日は丹沢大山クリーンピア21(神奈川山岳連盟)が行われたのだった。



イタツミ尾根にこのような階段路はなかったようだが非常に歩きやすくなっていた。  
回復傾向の天気だが三ノ塔はまだガスの中

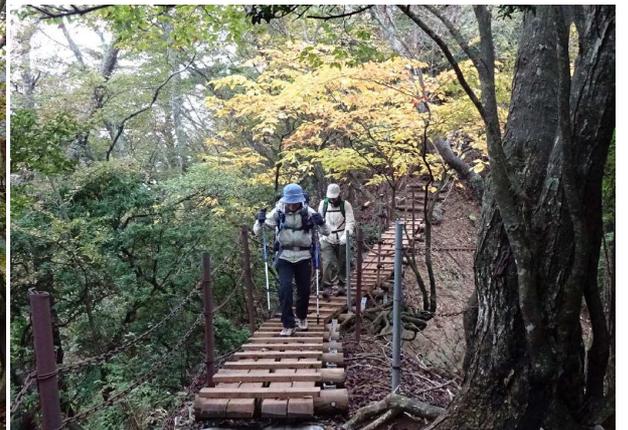


冷たい風が吹きぬく山頂は早々にして唐沢峠へ



落葉しているので  
大山阿夫利神社や  
弘法山への尾根も  
良く見える

まだ早い紅葉  
大山三峰に向かって  
降りてゆく



唐沢峠で  
ランチ  
林道を少し歩き  
トンネル手前  
から鐘ヶ岳へ





### 七沢城址の概要

室町時代の中ごろ、宝徳2年(1450)のことです。鎌倉公方(かまくらくぼう)足利成氏(しげうじ)の直臣たもと國康(くにやす)が、かんとうかんれい(やまのうち)上杉憲忠(のりただ)の直臣たちとの間に争いが起こります。上杉方に敗れた成氏は、いっさん江の島にのぼりますが、七沢が峠での合戦で上杉方は敗退し、憲忠は七沢(ななさわ)山に退きを講えました。成氏は、この5月に軍部の成り行きなどを記した書状を寄附幕府に出しました。これが『鎌倉大草子』という書物の中に残っており、初めて文獻の中に、七沢城に関する記述が登場することになります。

長享2年(1488)、山内(やまのうち)、扇谷(おうきがやつ)両上杉氏の間の不和が高じ、山内上杉顕定(あきさだ)が、当時扇谷上杉氏の所有していた七沢城方面に襲来します。扇谷上杉定正(さだまさ)は川越から一昼夜で駆けつけ、七沢城付近の南栗崎(みなぎさきまきはら)において、少数の兵で顕定の大量軍を撃退し、奇跡的な勝利をあげました。これが実高扇谷の合戦です。しかしこの時、定正側にも大きな犠牲が生じたと推定され、一説には、この時七沢城主であった七沢朝昌(ともまさ)(定正の兄弟)が戦死したとも伝えられています。七沢城が最終的に放棄された時期についてはっきりしたことは分かっていません。おそらく、小田原北条氏がこの地域を制する16世紀半ばではなかったかと思われます。

城の中心は、現在七沢リハビリテーション病院循環センターが建っている部分と推定されますが、病院の敷地、市立七沢児童館の建設に先立つて行われた発掘調査の結果、ここにも15世紀の建物遺構などが残っていることが発見されました。建物には、火災を警ったような痕跡があり、16世紀まで下らずに放棄されたようです。もしかすると実高扇谷の合戦の際に火に焼かれたのかもしれない。七沢城は中世の山城であり、江戸時代の天守殿を備えた城とはかなり違ったものと思われる。丘陵の地形をうまく利用し、部分的に造成を行いつつ、相当な距離にわたって、大規模な森のようなものを築いたのではないのでしょうか。この付近には、七沢城に関連すると思われる古い地名が残っています。

左の写真は七沢城遺跡 中央の石像が遺跡、その手前平塚田が本丸、右側の山は兵隊、その左側が大山、その手前等々田は日御湯跡(山内)

**ここは 鐘ヶ嶽 (かねがたけ)**  
鐘ヶ嶽 (標高 561m) の名は古くから知られ、浅間山 (せんげんさん) とも呼ば



2008年の頃には参道わきに沢山の石像があったのだが、今は疎らにしか見当たらない  
台座らしきものはあるのだが



盗難？  
一時保管  
帰宅後調査したが分からない





大山の帰りに鐘ヶ岳に立ち寄り  
参道にあった石像群を案内したかったのだが残念であった。  
七沢リハビリテーションの先にある、さがみビールレストランに寄って反省会とした。